

この手らと

第10号平成28年12月

まことの保育



報恩講高橋格昭ご輪番

鹿児島竜谷学園和光幼稚園



園長 川口公男

お寺で過ごす、いやしのひととき



和光幼稚園父母の会と西本願寺鹿児島別院の共催で開催されました。第一回目は、歌手のAIさんの母親、バーバラ植村さんの「前向きな子育て」についての講演でした。我が子の生き方をまるごと信じきる子育てに参加された40名の保護者のみなさまの深い感銘を受けておられるようでした。おとうさん、おかあさんから渡された命をバトンにぎりしめて自分の番を一生懸命に生きている子どもたちへの応援のメッセージがたくさん語られました。

可能性への挑戦



一生懸命は感動です。感動は、観覧する人の心を開くと申します。子どもたちが自らの可能性に挑戦したお遊戯会でした。可能性を伸ばすには、①いろいろなことに興味をもつ『好奇心』②より優れたものをめざす『向上心』、③ものの本質を見極めようとする『探究心』を引き出すことが大切です。

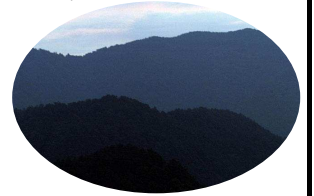
お遊戯会は、子どもたちの可能性がみことに花開いた感動の一日だった思っております。

「ふるさと」を思う年末・年始

年末・年始の行事で家族の絆を深めたい

ふるさとの 山に向かい 言うことなし
ふるさとの 山はありがたきな (石川啄木)
岩手県生まれの啄木は、少年時代、毎日、岩手山を仰いで育ちました。後年、ふるさとを離れ、流浪の生活を強いられた彼の心には、ふるさとの山がありました。「汽車の窓、はるかな北にふるさとの山見え来れば襟を正すも」

心傷ついて、ふるさとに帰る啄木に対して、ふるさとはやさしかったのです。



ふるさは、人生においてふっと羽を休めることができる心の母港です。

子どもたちの心にふるさとづくりを

年末年始は、大人、子供にかかわらずわくわくします。この時期は、子どもたちの心に心の母港となるふるさが形成される大事なときでもあります。

お正月になるとおせち料理やお雑煮を食べるのが江戸時代からの習慣となっています。

さて、もち食い競争に参加したおじいさんがもちをのどにつまらせて死にそうになりました。何とか一命をとりとめ、息を吹き返したとき周りの人が聞きました。「何か食べたいものは?」「おもち」と答えたそうです。それでは、子どもたちと幸せな年始年末をお過ごしください。そして、どうか良いお年をお迎えくださることを念じております。



おやじの会、別院、仏教婦人会のご協力でもちつき体験とおもちの贈り物できました。

--	--